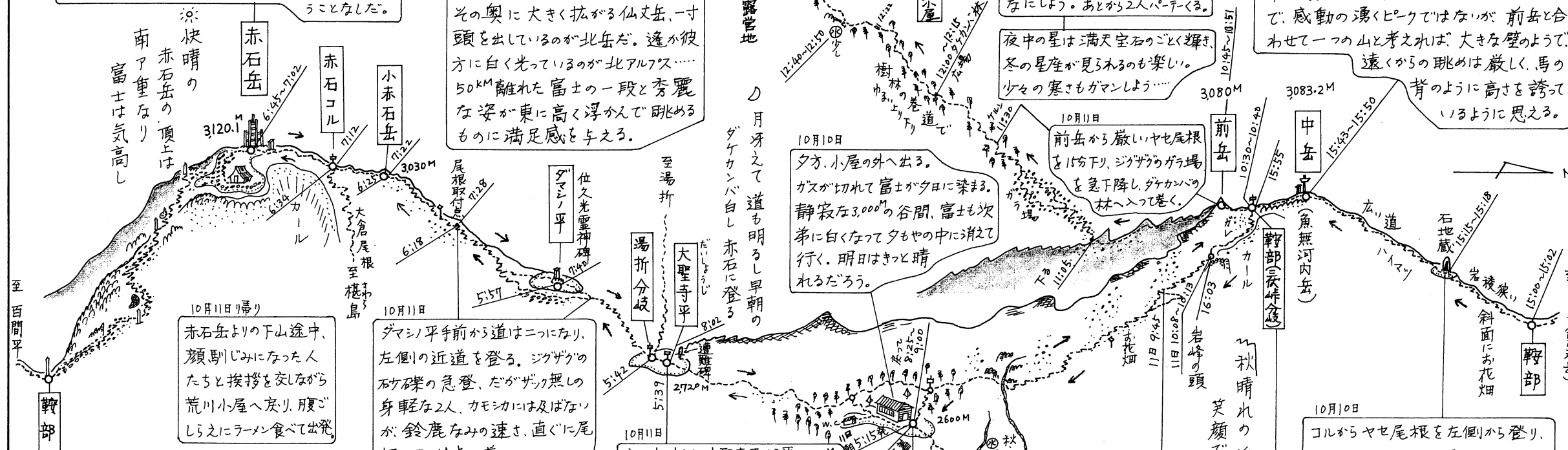


10月11日
赤石岳 6時45分登頂。快晴気温2℃ 風速17%
雪は点々とあるのみ。今日の登山も昨年別れる
とき、来年もきつとくることを心の奥底に誓っていた
ものだけに 健康を喜び合う。頂上からの展望は言
うことなし。

南から西には聖岳、大沢岳の稜線
が、若々しく連なり、恵那山～中央アル
プス～御岳が望まれる。北は先ず
土塩見～荒川三山～千枚～千付峠の山々
その奥に大きく広がる仙丈岳、一寸
頭を出しているのが北アルプス……
50km離れた富士の一段と秀麗
な姿が東に高く浮かんで眺める
ものに満足感を与える。

10月11日
静かだ。なあー。我々2人だけ。
時間は早い。夕食の仕度。
今日はアゲハと野菜のため。
残った材料豊富に使って酒さか
なによ。あと2人パーテくる。

10月10日
石地蔵より25分で中岳頂上に着いたが、各4
の間の沢から立ち上がったガスが一面に広がり、
視界がきかなくなり、気温も下がり、小寒くなる。
中岳頂上は岩稜の盛り上がりと言った感じ
で、感動の湧くピークではないが、前岳と合
わせて一つの山と考えれば、大きな壁のようで、
遠くからの眺めは厳しく、馬の
背のように高さを誇っ
ているように思える。



10月11日 帰り
赤石岳よりの下山途中、
顔馴染みになった人
たちと挨拶を交しながら
荒川小屋へ戻り、腹ご
しらえにラーメン食べて出発

10月11日
ダマシノ平手前より道は二つになり、
左側の近道を登る。ジグザクの
石ケ礫の急登、だがザクザク無しの
身軽な2人、カモシカには及ばない
が、鈴鹿なみの速さ、直ぐに尾
根の取付点へ着く。
小赤石岳は直ぐ前だ。その先の
赤石コルから大倉尾根を5時間
ほど下れば、榎島へ下りられる。

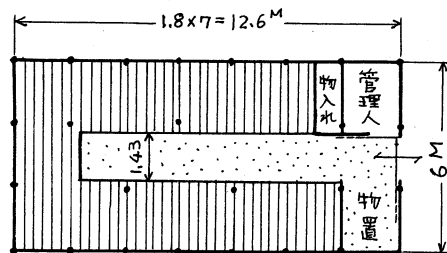
10月11日
広い小沢割の大聖寺平が更に100M
ほど高い碑のあるダマシノ平へ登る。
すっかり明るくなり、前岳があか
に染まり、聖、鬼、中盤丸山、大沢
など緑の峰々が頭を出している。

10月11日
静かな荒川小屋を9時に
出発。昨日下ったばかりの
前岳の裾を巻きながら、
昨日榎島から登って千枚
小屋で泊った白江市の山本
国崎両お嬢さんたち……
もうソロソロ顔を見せるろ
うなあーと、谷さんと
話をしながら……夏なら
お花畑の美しいジグザグ路
へ登りがけと、9:45 上の
方から笑い声が聞こえて大
きな挨拶。ヤッパリ会えた
なあー。思ったとおりだ。
「元気で頑張る」の声を
耳にしながらかげの空に向
ひ引き続き登る。

10月10日
コルからヤセ尾根を左側から登り、
右に左にからんで、夏ならヤッパリ
タネホ、タネバラ、オネタテ、ウサギギ、
タネヤハズハコなどの花々が、色とり
どりに群生を作って咲きこぼれてい
るであろう稜線を抜けて広い
登りに入ると石地蔵が立っている。

10月10日
いよいよ前岳と荒川小屋への分岐に立つ。
道標の下に(ヒマガッタ合点)と誰かが添
書きしてあった。見渡せばもうガスが杯
立ち込めて、何も見えな。視界も100M
たらず。分岐より左のガレ道を巻き巻き
下り、岩峰の頭から右へのジグザグ道を、
飛ぶように駆けおりて荒川小屋に飛び
込む。もう小屋には30名近い山男たちが
ラジウスのウナリをゴゴーさせて夕食作り
に励んでいる。間へ割り込んでヤレヤレ……と。

忙しく聞こえるラジウスの
黒影揺れる 荒川小屋
霜踏みで黒き山の波
見上げれば
夜明けの空に 春の星輝き



荒川小屋 1階建

満天のきらめく星座
眺めつつ
明日の天気をも
信じて休む
蒼き月 流れる雲に
隠れしに
静まりかえる
夜の山妖しく

10月10日
長い今日コース。朝の5時半から
11時間のロングラン。重いキスリ
グ背負って、よく頑張ったものだ。
小屋へ入って間もなく、先月中央
アルプス空木岳縦走中、後先
道道を大きく三回うねって広い大聖寺平へ出る。
赤石岳への北尾根が高く起伏して我々を
迎えて呉れる。

隣の人品川の仲順 強さん